世界湿地の日を祝う in 湖北(2014 年２月２日)の報告

植田潤(琵琶湖水鳥・湿地センター/湖北野鳥センター)
http://www.biwa.ne.jp/~nio/eng/index_e.html

開催趣旨

日本で最大の湖琵琶湖は、1993 年にラムサール条約の条約湿地として登録され、隣接したヨシ原の広がる西の湖は 2008 年に追加登録されました。　2014 年２月２日に湖北で、私たちは世界湿地の日として「湿地と

農業」をテーマとする活動として,琵琶湖とつながる水田の価値を学ぶ会を開催しました(写真１)。

写真１　琵琶湖とつながる水田の価値を学ぶ会を開催しました。

(1)主催：琵琶湖水鳥・湿地センター&湖北野鳥センター
協力：長浜アメニティ会議,
後援：琵琶湖ラムサール研究会。
場所：琵琶湖水鳥湿地センターレクチャールーム、センターの周辺。
2014 年２月２日 9:30～13:00

(2)開会のあいさつ　沢尾　武廣(さわお　たけひろ)　長浜アメニティ会議会長

(3)水鳥観察会

参加者はセンターのまわりにでかけ、ガン・白鳥・カモ類など 37 種の水鳥を観察しました。琵琶湖に住む水鳥の一部(ガン類、ハクチョウ類、カモ類の一部)は、農耕地(主に収穫後の水田)も重要な採食地として利用します。

(4)国内・国外の子供たちが参加したラムサール条約湿地の交流会の報告

植田潤さんが、子供たちの湿地を巡る国内の交流について、参加した４名の子供たち(小学校４～６年の藤井諒太・高畑里帆・大橋勇翔・風間由紀穂さん)に、感想をききつつ紹介しました。

2013 年８月に湖北に条約湿地の中海・宍道湖と豊岡の子供たちがやってきて、琵琶湖に入って水草の観察・漁業体験(イワトコナマズなどの網上げ)をしました。子供たちは湖で泳げることに感動しました(写真２)。2013 年 10 月には、湖北から４名の子供たちが宍道湖に行って、汽水湖に塩水(海水)がどのように入っているかを学習し、マガンが朝に飛び立つ様子を観察しました。

写真２　琵琶湖に入って水生植物の観察した子供たちは湖で泳げることに感動しました。

2014 年 1 月 10 日～12 日タイ・バンコクで「ESD-KODOMO ラムサール国際湿地交流」が行われ、それに参加した、冨岡知玄さん（浅井中学２年）、　上田壮一さん（八幡市立男山第３中学２年）が報告しました。

彼らは、タイでラムサール条約湿地のドンホイロット干潟と周辺のマングローブ林を見学し、湿地で見聞したことをもとに、この湿地の宝は何かを考える話し合いをして、発表しました(写真 3)。

写真３　地域の人々によって何が湿地の宝かを考え、その結果を発表しました。

(5)水田とつながる琵琶湖の魚たち(ゆりかご水田事業)　植田潤

湖北野鳥センターでは、世界湿地の日のテーマ「湿地と農業」についての展示をしました(写真)。日本の水田(たんぼ)では 5668 種もの生き物が確認され、生物多様性の観点からも水田は価値が高い湿地だとアピールしたポスターを紹介しました(写真 4)。

写真４　水田(たんぼ)ポスター　水田では5668種もの生き物が確認され、生物多様性の観点からも価値が高い湿地です。

琵琶湖水鳥湿地センターで行っている、水田につながる水路に生息する魚や貝などの生き物観察会の紹介をしました。琵琶湖に生きる生き物の一部にとって、水田は大切な湿地です。なまずや鯉・鮒などの魚は、水田を安全な産卵と稚魚の生息場所として利用します。

「ゆりかご水田プロジェクト」によって琵琶湖につながる水路から水田に魚たちが登り易くなっています。漁師の松岡正富さんが撮影したナマズや鮒が水路から水田に入り、産卵する興味深い動画(写真5)をみました。

写真５　フナが産卵のために水路から水田に入ります。　松岡正富さんが撮影した動画より。

(6) 滋賀県湖北地域におけるコハクチョウの利用水田の季節的変化

池田昇平(琵琶湖水鳥・湿地センター)

琵琶湖に生息する多くの水鳥の中には、周辺にある農耕地が採食地として大切な種が多く含まれています。特に湖北を訪れる人々の関心が高いのが刈り跡の水田の中で採食するコハクチョウです。コハクチョウは湖岸で水草を採食しますが、琵琶湖の水位が高い年は特に多くの個体が水田で採食することが知られていま

す。水田では落穂(収穫時に取りこぼした米)と二番穂(刈り取り後に生えて結実した米)を採食します。３年間の冬、コハクチョウがどの水田で採食しているかの調査をしたところ、越冬初期は湖岸近くであった採食域が越冬中期になると湖岸から離れていることが判りました。

写真６　コハクチョウは水田で落穂と二番穂を採食します。

(7)湿地と農業の関係を訴える漫画やポスター　　須川恒(琵琶湖ラムサール研究会)

世界湿地の日 2014 用に作成された漫画と、水田の生態学的重要性を訴えるポスターについて紹介しました。漫画の日本語訳をつくり条約事務局 HP でも掲載されたことを紹介しました。この漫画は、湿地をつぶさずに賢明に利用することで、農業や観光、生物保護がうまくすすむことを訴えています。

日本語訳のページ

http://www.ramsar.org/cda/en/ramsar-activities-wwds-ramsarmaterial-wwdadaptation2014/main/ramsar/1-63-78-441%5E26384_4000_0__#Japan

水田ポスター(写真 4)をデザインした古谷愛子(オリザネット)さんが水田に四季すむ生き物を紹介した図鑑ガイドもつくっていることを紹介しました(総延長は 2.6m もあります)。

(8)お講汁の会

湖北地方の伝統的な食べ物であるお講汁と、お赤飯(お祝いの時に食べます)をいただきました。　小学校の先生の野村祐美子さんが赤飯をふるまい、お講汁の説明をしました。お講汁は、お寺で僧侶の講演を聞いた後にふるまわれる味噌汁です。湖北のお講汁には、蕪や、水田の畦で育てた大豆が入っています(写真 7)。

写真７ お講汁をふるまいました。

構成協力　須川恒(琵琶湖ラムサール研究会)、英文報告翻訳協力　鎌田智子